

令和 5 年 5 月 26 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00626

研究課題名（和文）知識受容の面からみたキリシタン対訳辞書の研究

研究課題名（英文）Study of the dictionaries edited by Jesuit missionaries in Japan, focusing on the perspective of informing knowledge

研究代表者

岸本 恵実 (Kishimoto, Emi)

大阪大学・大学院人文学研究科（人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻）・教授

研究者番号：50324877

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：キリシタン版『羅葡日辞書』のポルトガル語訳・日本語訳は、ラテン語辞書『カレピヌス』のラテン語語釈の抄訳であることが多いが、これまで指摘されていたキリスト教に関する記述以外にも、天文に関する記述に『カレピヌス』によらない日本語訳がみられることが明らかになった。また、『日葡辞書』がその後、日本のイエズス会士マノエル・パレト『葡羅辞書』、ポルトガルのイエズス会士ベント・ペレイラ『葡羅辞書』というポルトガル語辞書二点の典拠になったことも、本研究の中で具体例とともに始めて実証された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

キリシタン版『羅葡日辞書』は、主要原典であるラテン語辞書『カレピヌス』の版がほぼ特定され対照研究が行われるようになったが、その他の書との関係は不明の点が多かった。本研究により、天文に関する記述におけるイエズス会コレジオの教科書『講義要綱』との連続性、動物に関する記述における『羅葡日』、『日葡辞書』それぞれの特色が明確になった。また『羅葡日』、『日葡』を利用したマノエル・パレト『葡羅辞書』が、ポルトガルで編纂されたベント・ペレイラ『葡羅辞書』の典拠になったことから、日本イエズス会による辞書が、その後のポルトガル語辞書の情報源となったことを始めて実証できた。

研究成果の概要（英文）：The Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum (1595), a Latin-Portuguese-Japanese dictionary, was printed in Amakusa, Japan by the Jesuits in Japan. It has been indicated that the Portuguese and Japanese translations in this dictionary are based on summaries of the Latin explanations in the original dictionary by Calepinus. Compared the Dictionarium with the original Calepinus, this research clarifies that additional explanations in the Japanese translation are present for terms related to cosmology. This is likely because of the educational system in the Jesuit school, which included education on cosmology. Moreover, recent research indicates that the Vocabulario da lingua de Iapam (1603, 1604), a Japanese-Portuguese dictionary printed in Nagasaki, offers several Portuguese words to two Portuguese-Latin dictionaries: one edited by Manoel Barreto, S.J., during 1606-1607 in Japan, and another edited by Bento Pereira, S.J., in 1647 in Portugal.

研究分野：キリシタン語学

キーワード：イエズス会 辞書 キリシタン 羅葡日辞書 日葡辞書

## 1. 研究開始当初の背景

キリシタン資料研究は、各所蔵機関によるデジタル画像の公開、関連するデータベースの公開、2003年以降の Missionary Linguistics (「宣教に伴う言語学」) 国際会議の開催などにより、日本語学の枠を大きく超え、地域・言語の種類と、研究領域を広くカバーするグローバル化の様相を呈している。研究代表者が研究するラテン語・ポルトガル語・日本語対訳の『羅葡日辞書』(1595年天草刊、以下『羅葡日』)を例とすれば、ラテン語・ポルトガル語・他宣教地言語の研究(ベトナム語、中国語等)との連携、歴史学・思想史・印刷史研究との交流が進みつつあった。

この世界的動向を受け、日本におけるキリシタン資料研究は個別資料の研究にとどまらず、欧文原典・他のキリシタン資料・他言語の資料との本格的な比較分析へと進んでいる。また研究者同士の交流が盛んになり、長年日本語学の領域で積み上げられてきたキリシタン資料研究の成果が、徐々に国外にも発信されるようになってきている。

しかし上のようなグローバルかつ学際的研究は緒についたばかりであり、「宣教に伴う言語学」の学問的手法も未確立であるために、まだ各言語・資料の研究の「紹介」段階にとどまっていると言わざるを得ない。

そこで本研究では、日本語学・個別資料研究の枠では捉えきれないキリシタン資料として『羅葡日』を中心に据え、これまで研究代表者が行ってきた原典との対照研究を深化させ、対訳辞書として特に原典『カレピヌス』および『日葡辞書』(1603, 1604年長崎刊、以下『日葡』)と知識受容のあり方を比較し、各辞書の目的と成立事情の相違もふまえながら、対訳辞書としての相対化を行い、その成果を国内外に発信することを目指した。

## 2. 研究の目的

本研究では第一に、原典『カレピヌス』の膨大なラテン語文献の引用と詳しい語釈のうち、ラテン語文献からの知識が『羅葡日』にどのように取捨選択・翻訳を経て流れ込んでいるかという編纂の方針を探究する。第二に、『羅葡日』と同じく日本イエズス会の編纂した辞書である『日葡辞書』の日本の事物に対する記述と比較することによって、『羅葡日』の特色を明らかにし、事典と辞典とが未分化であった当時、『羅葡日』が有していた百科事典的要素の質と量を分析することによって、対訳辞書として『羅葡日』がどのような特徴を有していたかを示す。

『羅葡日』は従来、原典『カレピヌス』との対照はなされず、『羅葡日』単体で収載日本語の研究が行われてきたが、原典との比較研究が不可欠であり、すでにそれは可能になっている。『羅葡日』では『カレピヌス』の膨大なラテン語文献引用をほとんど省略しているため、どのように参照されていたか不明であったが、『カレピヌス』との対照により、ようやくその翻訳の基本手法が明らかになってきた。知識受容についても、尾原悟「キリシタン時代の科学: ペドロゴメス著「天球論」の研究」『キリシタン研究』第10輯(1965)など、日本語訳に用いられた語彙に注目した研究があるが、『カレピヌス』のどの部分を取捨選択し翻訳したか、またその参照のあり方がキリシタン時代の教育方針や他キリシタン資料の編纂態度とどのように関連しているかといった研究は、まだほとんど行われていない。したがって本研究は、『羅葡日』の用語研究にとどまらず、言語を介した知的交流史研究に発展する創造性を有している。

## 3. 研究の方法

本研究では『羅葡日』を中心に、(A)『カレピヌス』との比較、(B)『日葡辞書』との比較という二つの柱を立て、イエズス会士たちが日欧のどのような文献を参照し得たかも調査しながら、『羅葡日』の特徴の相対化を行う。

(A)『カレピヌス』との比較では、『カレピヌス』にみられる古典および知識の受容のあり方と、それが『羅葡日』においてどのように取捨選択され翻訳されているかを調査する。『カレピヌス』には当時のヨーロッパ人文主義の影響を受け、ケケロ、ウェルギリウス、ホラティウスなど数多くのラテン語古典が引用されているが、本研究では特に、科学知識面での『カレピヌス』の最も主要な典拠である大プリニウス『博物誌』(77年成立)の引用やその他科学知識に関わる記述に注目する。『カレピヌス』では、多くの自然物に関するラテン語見出しにプリニウスの引用があり、百科事典的解説がなされることがあるが、『羅葡日』ではこのような自然物に対し、「鳥の名」「草の名」など上位概念語を用いたごく簡略な日本語訳にとどまる場合が多い。これらは日本にない事物であったり、日本語に適切な訳語がなかったりしたために簡略な訳にせざるを得なかったとも考えられるが、天文に関する語などは、比較的説明的に翻訳しているようにも見える。このような差異をより明確にすべく、16世紀当時のヨーロッパ科学史や日本イエズス会による科学教育の状況もふまえ、大プリニウス『博物誌』と『カレピヌス』、『カレピヌス』と『羅葡日』との対比を中心に、『羅葡日』の翻訳特徴を明らかにする。

(B)『日葡辞書』との比較では、(A)ののち、『羅葡日』と、『羅葡日』の影響を受けたと推測さ

れる『日葡』とを知識受容の点から比較する。『日葡』には土井忠生・森田武・長南実編訳『邦訳日葡辞書』岩波書店(1980)・森田武『日葡辞書提要』清文堂出版(1993)などの精緻な研究があり、近年では中野遙氏の研究により本編と補遺との関係など全体構造についてもかなり明らかにされているが、どのような語が立項され、どのような語釈がされているかという編纂方針については必ずしも明らかにされていない。また、『日葡辞書』に見られる各種の専門用語については比較的多く、近年でも、磯野直秀『『日葡辞書』の動物名』『慶応義塾大学日吉紀要自然科学』34(2003)・松本伸子『『日葡辞書』所載飲食関係用語総覧』岩波ブックセンター(2009)のような研究があるが、各分野の専門用語を『日葡辞書』全体の編纂態度として捉えたり、『羅葡日』の編纂態度と比較したりする研究はこれまでほぼなかったと言ってよい。

本研究では『羅葡日』と比較する視点から、『羅葡日』の日本語訳において特色のあった生物名称と天文用語とを中心に、『日葡』にどのような語が立項されどのような語釈がなされているかを調査する。合わせて、それらの見出し語における日本語文献の参照態度を分析することによって、二辞書の共通点と相違点を明らかにし、背景にある日欧それぞれの古典受容史および科学史の流れと併せて考察する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 『羅葡日辞書』における西欧天文学受容

『羅葡日』は『カレピヌス』に基づき天文学に関する多くのラテン語を見出しに立てているが、これらには動物名の場合と比べ、明らかに詳しい日本語訳が付されている。『羅葡日』は日本におけるラテン語教育のために刊行されたものであり、同時期コレジオで「天球論」を含む『講義要綱』が講義されていたことも考え合わせると、イエズス会教育方針に沿った訳出が行われたことが推測される。

##### (2) 『羅葡日辞書』・『日葡辞書』における動物に関する記述

『羅葡日』も『日葡』も馬・牛に関する語を多く収めるが、『羅葡日』は『日葡』よりも、羊・豚に関する見出し語や記述の多さが目立つ。これは、『羅葡日』が古代ローマ文化を源泉とするラテン語辞書『カレピヌス』を原典としているのに対し、日本では羊・豚は家畜としての歴史が浅く、関連する日本語語彙がまだ少なかったためと考えられる。

『羅葡日』では動物名の見出しに対しておおむね簡略な訳文しか付されず、後の『日葡』でも日本語の動物名に対し簡略な語釈がされることが多い。ただし『日葡』では例外的に、馬に関する記述が大変詳しく、犬など他の動物については慣用・比喻表現の情報が多く、という特徴が見出される。

##### (3) ポルトガル語辞書の典拠としての『日葡辞書』

『日葡』の語釈に用いられたポルトガル語の一部は、日本で編纂されたマノエル・バレット自筆『葡羅辞書』(1606-07)およびポルトガルで刊行されたベント・ペレイラによる『葡羅辞書』(1647)に採録されたとみられる。『日葡』はバレット、ペレイラの参考書目あげられており、『日葡』がポルトガル語辞書史に直接に影響を与えていたことが本研究によりはじめて実証された。さらに、『日葡』には、そのような後年のポルトガル語辞書に採られていない、大航海時代ポルトガル人が一時的に用いた他言語からの借用語も含まれている。『日葡』がポルトガル語辞書として早期の大型辞書であることはこれまでも指摘されていたが、本研究により具体例をもって資料的価値が示された。

##### (4) 明治・大正期のキリシタン研究と近代南蛮文学

キリシタンがもたらした新概念とそれを表す用語が近代南蛮文学に使用されたことはよく知られている。しかしその使用実態は個々の語によって異なり、まだ十分解明されていなかったところがある。明治・大正期に出版された新村出らによるキリシタン研究書の使用語彙が、北原白秋、木下杢太郎、芥川龍之介らの創作文学の語彙として受容され、しばしば、ふりがなを付すなど独自の加工の後使用された経緯を、芥川龍之介のいわゆる切支丹物を中心に明らかにした。

##### (5) 明治初期カトリック再宣教に伴う日本語学習書の編纂

カトリック日本再宣教に伴い、パリ外国宣教会のフェリクス・エヴラールにより著されたフランス語話者向日本語学習書『日本語教程』(1874)のテキストが、浮世草子『新鑑草』に基づく口語訳・仏訳であること、使用された日本語及び解説には、同時期のアストン、サトウらの英学会話書とも異なる独自の記述がみられることが判明した。

##### (6) キリシタン語学入門書の刊行

日本語史資料として利用されることの多かった各種キリシタン文献を、大航海時代に作成された文献、また、「宣教に伴う言語学」資料の一群に位置づける手引き書として、13名による執筆をとりまとめ、白井純氏との共編書『キリシタン語学入門』を出版した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 岸本恵実	4. 巻 16
2. 論文標題 「奉教人の死」「きりしとほろ上人伝」の外来語表記	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 芥川龍之介研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 岸本恵実	4. 巻 119
2. 論文標題 明治初期バリ外国宣教会の語学書・エヴラール『日本語教程』（1874）研究序説	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語文	6. 最初と最後の頁 78-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 岸本恵実	4. 巻 119
2. 論文標題 日本書誌（フラヌール第4回）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊永青文庫	6. 最初と最後の頁 34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岸本恵実	4. 巻 3月
2. 論文標題 宣教師が翻訳した和歌 キリシタン版『日葡辞書』と幕末のフユレ神父	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪大学グローバル日本学教育研究拠点2023年コラム	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岸本恵実	4. 巻 40
2. 論文標題 『日葡辞書』における動物に関する記述 馬を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語語彙史の研究	6. 最初と最後の頁 45-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kishimoto, Emi	4. 巻 VI
2. 論文標題 Some remarks on Alexandre de Rhodes ' s linguistic works on Vietnamese: the influence of Joao Rodrigues ' s Japanese	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Missionary Linguistics VI. Missionary Linguistics in Asia.	6. 最初と最後の頁 189-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kishimoto, Emi	4. 巻 -
2. 論文標題 Vocabulario da lingua de Iapam and Portuguese dictionaries in the seventeenth century	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Multiplas faces de pesquisa japonesa internacional: integralizacao e convergencia.	6. 最初と最後の頁 45-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kishimoto, Emi	4. 巻 -
2. 論文標題 Lexicografia Latina en Japon: "Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum" (1595)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cruces y Ancora	6. 最初と最後の頁 179-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kishimoto, Emi	4. 巻 2019
2. 論文標題 Japanese Linguistics as Reflected in Material by Western Missionaries	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of the Chinese Linguistic Society of Japan	6. 最初と最後の頁 63-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7131/chuugokugogaku.2019.266_63	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kishimoto, Emi	4. 巻 -
2. 論文標題 Stairway to the Stars: Jesuit Training and the Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum (1595)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Mastering Languages, Taming the World The Production and Circulation of European Dictionaries and Lexicons of Asian Languages (16th-19th Centuries)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計19件(うち招待講演 6件/うち国際学会 6件)

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 キリシタン文献を読む(シンポジウム「文献資料を読む 中世語研究の継承と展開」)
3. 学会等名 日本語学会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kishimoto, Emi
2. 発表標題 Inconsistencies in the Translation of the Latin-Portuguese-Japanese Dictionary (1595)
3. 学会等名 International Conference on Historical Lexicography and Lexicology 2022(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 明治初期バリ外国宣教会の語学書 エヴラール『日本語教程』（1874）について
3. 学会等名 第394回日本近代語研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 明治初期バリ外国宣教会の語学書・エヴラール『日本語教程』（1874）の人称代名詞について
3. 学会等名 第16回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kishimoto, Emi
2. 発表標題 THE INFLUENCE OF THE VOCABULARIO DA LINGOA DE IAPAM IN PORTUGUESE DICTIONARIES
3. 学会等名 MINI ENCONTRO DOS ALUNOS DE POS-GRADUACAO EM HISTORIOGRAFIA LINGUISTICA 2022（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 キリシタン文献の用語について
3. 学会等名 GASTVORTRAG IN JAPANISCHER SPRACHE（ハイデルベルク大学）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kishimoto Emi
2. 発表標題 Translation of Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum (1595)
3. 学会等名 GUEST LECTURE (ハイデルベルク大学) (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 版本『サントスのご作業』の「¶」(ピルクロウ)と「;」(セミコロン)
3. 学会等名 第17回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 伊曾保物語の「ばすとる」(羊飼い) - キリシタン版と国字本をつなぐことば
3. 学会等名 よみがえったイソップ絵巻『絵入卷子本「伊曾保物語」』刊行記念トークイベント(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 『羅葡日辞書』対訳にみえる単位換算のゆれ
3. 学会等名 第14回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 芥川龍之介南蛮物の「上人」
3. 学会等名 第12回京都府立大学国語学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 コルディエ 『日本書誌』 (Bibliotheca Japonica) について
3. 学会等名 第4回コルディエ文庫研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 『日葡辞書』における動物に関する記述：馬を中心に
3. 学会等名 第12回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 「奉教人の死」「きりしとほろ上人伝」の外来語表記
3. 学会等名 国際芥川龍之介学会 ISAS第2回研究集会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本 恵実
2. 発表標題 『日葡辞書』と17世紀のポルトガル語辞書
3. 学会等名 第13回ブラジル日本研究国際学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本 恵実
2. 発表標題 ポルトガル語辞書編纂史における『日葡辞書』
3. 学会等名 第11回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岸本 恵実
2. 発表標題 羅葡日辞書の翻訳と日本イエズス会教育
3. 学会等名 国際ワークショップ「外語の熟達から世界の統制へ」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岸本 恵実
2. 発表標題 『日葡辞書』における動物に関する記述
3. 学会等名 「近世日本のキリシタンと異文化交流」第3回報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kishimoto Emi
2. 発表標題 "Vocabulario" in the History of Lexicography
3. 学会等名 International Symposia: "Vocabulario da Lingua de Japao" (1603): a Missionary Linguistic Approach (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 岸本恵実、白井純	4. 発行年 2022年
2. 出版社 八木書店出版部	5. 総ページ数 168
3. 書名 キリシタン語学入門	

1. 著者名 エリザ・タシロ、白井 純	4. 発行年 2020年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 868
3. 書名 リオ・デ・ジャネイロ国立図書館蔵 日葡辞書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>国際芥川龍之介学会ISAS第2回研究集会（2021年3月13日）  <a href="https://akutagawagakai.web.fc2.com/">https://akutagawagakai.web.fc2.com/</a>          第13回ブラジル日本研究国際学会（2021年3月17-19日）  <a href="https://doity.com.br/ciejb2020/blog/Nihongo">https://doity.com.br/ciejb2020/blog/Nihongo</a>          国際ワークショップ「外語の熟達から世界統制へ」（2019年10月27日）  <a href="http://www.toyo-bunko.or.jp/oshirase/oshirase_showeach_db.php?tgid=111">http://www.toyo-bunko.or.jp/oshirase/oshirase_showeach_db.php?tgid=111</a>          近世日本のキリシタンと異文化交流（第三回報告会）（2020年1月12日）  <a href="https://www.efeo.fr/blogs_post.php?bid=10&amp;nid=3758&amp;l=FR&amp;y=2020">https://www.efeo.fr/blogs_post.php?bid=10&amp;nid=3758&amp;l=FR&amp;y=2020</a>          国際シンポジウム キリシタン版「日葡辞書」の世界（2020年2月21, 23日）  <a href="https://joao-roiz.jp/202002S/program.html">https://joao-roiz.jp/202002S/program.html</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------